「キャリア・パスポート」を活用した授業例④

（１）高等学校　特別活動

（２）３（４）学年　ホームルーム活動（２）「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」

　　　ア　自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成

（３）題材「高校3年間を振り返り、自分自身の成長と今の自分を見取る」

　　　▶高校3年間の「キャリア・パスポート」を見返し、そのときどきの等身大の自分を把握する。また、それら点の姿をチャートを用いてつなげ、自分自身の成長を見取れるようにする。その際、不安やできないことがある自分も否定せずに認めることが大切である。

（４）事前の指導（活動）

　　　▶高等学校においてこれまでに作成した「キャリア・パスポート」を見返し、自分のやってきたことを整理させておく。

（５）本時の学習過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 児童生徒の活動 | 指導の留意事項 |
| 導入 | ▶ねらい「高校3年間を振り返り、自分自身の成長と今の自分を見取る」の確認。  ▶本時の流れを確認。 | ▶自分自身の振り返りを行うにあたり、等身大の自分を認めることが大事であることを確認する。 |
| 展開 | ▶3年間で作成した「キャリア・パスポート」をもとに、ワークシートを活用して振り返りを行う。  ▶活動３については、１．２のマトリクス、チャートを利用して、自らのいいところだけではなく、できていないところや欠点、これからどう改善しようと思っているかなど、一見マイナスな部分についても素直に認めて自己PRに生かす。  ▶グループ内で自己PRを発表する。 | ▶活動３において、自己PRを文章で書けない場合には、マトリクスやチャートを参考に、バタフライチャートのようなシンキングツールなどを利用し、いいところ（強み）と欠点（弱み）を対峙して把握させてから活動に移るなど、生徒の中身の文章化がうまくいくような支援が必要。  ▶支持的風土を保つ。 |
| まとめ | ▶グループ内での発表後、感じたことや考えたことをワークシートに記入する。 |  |

（６）事後の指導（活動）

　　　▶この活動が高校生活最後の「キャリア・パスポート」になると考えられる。ただ、活動時期を早めすることで、この活動をもとに志望理由書等を作成する活動につなげることができる。

（７）実施時期について

　　　▶卒業年度の１月～２月を想定しているが、この活動を志願理由書にむけた活動としたいときには2学期に実施も可能である。しかし、あくまでもこの活動の目的は志願理由書を書くことではなく、高校3年間の自らの成長を見取ることであるので、他の「キャリア・パスポート」の記入が済んだ後が望ましい。